

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：環境理工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>1 現教育体制等の点検および学部将来構想の検討 本学部は平成6年10月に設置し、今年度で18年目を迎えることとなる。そこで、現状の教育体制等について点検・評価の実施および将来構想策定に向けた検討を開始する。</p> <p>2 勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校訪問や高大連携事業の推進および積極的な広報活動の展開により、学部アドミッションポリシーに適応した受験生確保に努める。</p> <p>3 教育の質向上への取組 ピアレビューの実施拡大や教員研修会の継続等のFD活動により教育の質向上を図る。 また、学生の出口での質保証ができるよう教育方法の改善に努める。</p> <p>4 実践型環境教育の充実 本学部教育の特徴の一つに掲げている実践型環境教育科目(「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学特別コース」、「ESD学外実習」等)の充実を図ることにより、社会から求められている環境人材の育成に努める。</p> <p>5 学生キャリア支援の充実 全学キャリア開発センターの協力を得ながらキャリア教育の充実を図る。 また、本学部キャリアサポート室と各学科教員の連携のもと、学生へのきめ細やかなキャリア支援活動を展開する。</p>	<p>1. 現教育体制等の点検および学部将来構想の検討 学部長、両副学部長、各学科代表、事務室長で構成する学部将来構想委員会を立ち上げ、9月から毎月1回のペースで開催し、現在は主に入試制度の統一化について検討している。</p> <p>2. 勉学意欲の高い受験生の確保 勉学意欲の高い受験生の確保のため、中国・四国地区および兵庫県を中心とした62校への高校訪問の実施、「学生募集支援企画」への新たな参画、オープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催など、積極的に本学部を情報発信する広報に努めた。また、4月開催の教員研修会において、受験業者による本学部入試の現状分析についての講演会を実施した。このことは、受験生確保に向けた検討を進める上で有用であった。 これらの取組及びこれまでの取組により、一般入試(前期日程)の志願倍率は昨年の1.9倍から3.4倍へと大幅に増やすことができた。</p> <p>3. 教育の質保証への取り組み 学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを策定した。また、2月にQ-cum システム説明会を開催し、意見交換を行った。 学生の出口での質保証については、各学科において、卒業認定試験や学生の達成度自己点検の実施等、積極的に取り組むとともに、ピアレビューも実施した。</p> <p>4. 実践型教育の継続及び充実 「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学GP特別コース」及び「ESD学外実習」の実施を通じて環境人材の育成を図った。「タイ国カセサート大学GP特別コース」は、さらに5年間、交流を継続する覚書きを締結することができた。</p> <p>5. キャリア教育および学生支援の充実 学部必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路について見通しを持って学生生活を送れるようキャリア教育の充実を図るとともに、環境理工学部キャリアサポート室と各学科就職担当教員が連携し、きめ細やかなキャリア支援を行った。平成24年度の就職状況は、就職希望者64名のうち62名(2月末現在)が内定しており、就職率は97%と高く、キャリア支援の成果が現れている。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率:一般入試(前期日程) 2.5倍以上 ・就職率:95%以上(現状維持を目標) 	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
<p>1 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することにより、本学部の研究成果を広く社会に還元する。</p>	<p>1. 大学院と連携して、卒業論文の作成等について、質の高い課題研究を指導することに努めた。 また、本学部教員の教育・研究活動状況を広報するため、環境理工学部研究報告には、著書、原著論文、総説、研究受賞等、博士論文指導などについて全教員の業績のほかにも、卒業論文のリストも載せ、本学部研究報告を電子データにより発刊した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
<p>1 オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出前講義や、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。</p> <p>2 公開講座等を通じて地域住民への貢献を行う。</p> <p>3 免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。</p> <p>4 前述の実践型環境教育の実施を通して、地域行政機関や地域社会への社会貢献を行う。</p>	<p>1. 前述の高校訪問の実施により連携を図った他、7校の高等学校への講師派遣、12校の高等学校の大学訪問受入やスーパーサイエンス校への事業協力等により、地域の高等学校との連携を深めた。</p> <p>2. 例年どおり公開講座を実施することにより、工学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。</p> <p>3. 免許状更新講習の講義を8講座開講し、教員の知識向上に協力することができた。</p> <p>4. 前述の実践型環境教育の推進を通じて、岡山市環境保全課やNPO法人と協力しての地域貢献や、タイ国カセサート大学との交流による国際貢献を大いに果たすことができた。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>教育、研究、社会貢献の3領域について、目標の達成状況は良好であったと評価している。とくに、教育領域における受験生の確保については、一般入試(前期日程)の志願者倍率を3.4倍と大幅に上昇させることができた。これは当初の目標以上の成果と考えている。今年度の結果は、これまでの高校訪問などの広報活動を継続実施してきた総合的な成果とも評価できるが、今後に向けて、今年度の分析を行うとともに、本学部の認知度をさらに高めるための方策についても引き続き検討していきたい。</p> <p>さらに、「学生キャリア教育の充実」に関しても、就職率は95%を超えており、当初の目標は十分に達成できたと考えている。本学部の就職率は全国的にも理系でトップクラスを維持しており、それにはキャリアサポート室の貢献が大であるが、就職支援/学生支援については今後とも同室と各学科とが連携した形でその充実を図っていききたい。次年度は、学部の社会的役割、特徴、強みなどについて点検・評価し、学部の将来構想について検討したいと考えている。</p>	